

## 外務省での勤務を通して

平成28年9月  
外交実務研修員 板谷 吉浩  
(和歌山県より派遣)

### 1. 地方自治体職員として

私は、前職を経て平成23年度に和歌山県庁に入庁し、まずは商工振興課に配属され、ショッピングモールをはじめとした大規模小売店舗の届出の受理、県内の流通や印刷業界の動向調査及び公益法人制度改革に伴う同法人の移行業務等を2年間経験した後、保健所に配属となりました。主に医療法に基づく病院等の開設・変更の申請・届出の受理及び実地検査、管轄区域における救急医療・地域医療に関する体制の構築、医療従事者の免許申請受理等の業務を2年間従事しました。前職も含め、国際的な業務に従事した経験が全くありませんでしたので、外務省への派遣の通知があつてからは不安の毎日を過ごしました。

### 2. リビアを担当して



外務省HPより



外務省HPより

平成27年4月に、中東アフリカ局中東第一課に配属されることになりました。同課は多数の中東・アフリカ地域の国々を所管しており、私は北アフリカに位置するリビアを担当させていただくことになりました。

私が着任した当初は、東西に政治勢力が二分されており、国連リビア支援団により統一政府の樹立に向けて、政治対話が第三国で累次実施されるとともに、ISILがリビアに本格的に進出し、各国の在外公館でテロが頻発した時期でした。残念ながら、寄稿時点においてもリビアは治安情勢により、退避勧告が出されているため、現地に出張したことがないため、現地の政治、経済、治安に関する情報は報道ベースが中心とならざるを得ない状況でしたが、私のような研修員に対しても親切にいただき、日頃よりお世話になっている在京リビア大使館の参事官からも定期的に情報を共有していただきました。

なお、リビア情勢は難民・移民、テロ対策、安保理の制裁等の観点から国際社会からも非常に関心が高いため、サミットや多国間・二国間の会合では議題に上がることが多いため、常に情報を更新して準備しておき、局を越えた複数の課、在外公館及び他省庁とも連携し、情報共有しておくことが不可欠となります。

リビア情勢を分析するにあたり、リビアについて更に深く勉強したい欲求が日々高まっていきました。国際情勢に精通された上司から紹介いただいたリビアに関する歴史の本や論文を読むとともに、毎朝登庁した時点で、リビアに関する報道を真っ先に確認する習慣ができました。I S I Lリビアの勢力が弱まりつつある報道や統一政府の樹立に向けて政治的に進展があった報道を目にした際には嬉しく思う一方で、過激派武装組織による攻撃やテロにより多数の犠牲者が発生した場合、又は統一政府の樹立の後退に繋がるような事態が生じた際には、自国での出来事のように心が痛みます。それは担当としての職務を超えて、リビアを我が国のように大事に思う気持ちに次第に変わっていきました。実際に現地に出張したことも住んだこともないのですが、毎日リビアに触れることにより、自分のもう一つの母国のように感じております。リビアが早期に安定を取り戻すことを心から願うとともに、将来的にリビアを往訪し、今は地図上でしか見ることができない街を実際に歩いて自分の目で確かめたいと考えております。

### 3. 外務省の業務について

総理がサミット等で他国を訪問される際には、現地応援ということで本省や在外公館から応援出張という形で多数の職員の皆様方が現地に参集なされます。私も平成27年11月に総理がイスタンブールを訪問された際に出張させていただきました。本省はもちろんのこと、各国の在外公館からも外交官として外交の第一線でご活躍されていらっしゃる職員の方が、会談やレセプション等の付随する重要行事に向けて、一心不乱に御活躍されている姿を目の当たりにしました。決して指示を待つのではなく、積極的に自分から業務を見つけ出し、実行に移されていくスピードに驚愕したことは今でも忘れられません。

また、各国の要人が訪日されることもあり、平成28年3月にエジプトの大統領が訪日された際にはエジプトから随行したプレスの担当班の一員として業務に従事させていただきました。外務省の業務はマニュアル等で一括りにできず、想定外の出来事にも迅速な対応が求められる中、語学を駆使しながら柔軟に対応される職員の皆様のお姿には脱帽いたしました。



平成27年11月 総理トルコ・イスタンブール訪問

(於：イスタンブールのアタチュルク空港)

### 4. 最後に

外務省で勤務する前までは、恥ずかしながら新聞の国際欄にはほとんど目を通したことがない上に、これまでの人生で一度も海外旅行を経験がなかったほど国外に全く興味がなかった自分でしたが、本省には世界各国に赴任された経験を持たれた方が多数いらっしゃいますので、皆様からお聞きした赴任先での

業務や日常生活の話は海外出張や今後赴任する上で貴重な助言となるため、心より感謝しております。

今では、まずは新聞の国際欄からまず目を通すようになるほど、国際政治に興味を持つに至り、自分の視野が少し広がったような気がしております。

外務本省での2年間の経験を活かし、人生初となる海外勤務を一日一日大切に、業務の早期習得及び継続的に語学勉強に邁進し、今後、地方自治体にも、ますます求められていく国際化に向け、微力ながら貢献できるよう外交実務研修員研修で得た貴重な経験を和歌山県に還元していきたいと考えております。